

大神楽単独全勝

紙相撲新聞

第162回本場所
八～九日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

大神楽鬼ヶ嶽2強の様相 千代鈴はまたも磯自慢に苦杯

〔第百六十二回本場所八日～九日目〕

7月7日七夕の日に八日目と九日目
が開催された。

九日目を終え、大関大神楽が八日目
の小結鬼ヶ嶽の一番、九日目の若ノ
嶋戦に勝って全勝を守り、ただ一人9
戦全勝として優勝争いの単独トップに
立った。

これを新入幕で幕尻の西勢ノ里が1
敗で、小結鬼ヶ嶽、平幕夢ノ花、白閃光
の3力士が2敗で追う展開となり、優
勝争いはこの5力士に絞られた。



↑今場所の優勝を占う大一番、大関大神楽と小結鬼ヶ嶽の全勝
対決。勝った方が優勝に大きく近づくだけに共に負けられな
一番だったが、予想を超えて大神楽が圧勝。貫禄を示した。

↓九日目も大神楽の勢いは止まらず。勝ち越して
復活をアピールしたい横綱若ノ嶋を先手を許し
ながらも落ち着いて捌き、9連勝とした。



「7日間で一番安定した相撲を取って
いるのが大神楽だな！」と朝日松理事
長に言わしめた大関大神楽はここまで
7戦全勝。
その大神楽が一番恐れる相手が、今
場所2横綱1大関を破って大神楽と
もに7戦全勝と絶対調の小結鬼ヶ嶽。
その2人が対戦する取組が八日目に組
まれた。
「今場所の鬼はひと味もふた味も違う
からなあ」と磯ノ海親方。大神楽とし
ては、今場所は是が非でも優勝して悲
願の横綱昇進を果たすの
だと臨んでおり、この一
番は大きな山場。

一方の鬼ヶ嶽は、かつて横綱まであ
と一歩というところまでいったが、師
匠の不幸もあって、その後は十両まで
陥落。
そこから奮起して再び三役に返り咲
き、今場所はかつての相撲に戻ったか
のような強さをみせている。
大神楽はこの一番に勝っても残り3
日は横綱大関戦が控えていう山場が続
くが、鬼ヶ嶽がもし勝つようなことが
あると、このまま走るようなことも考
えられる。
館内の親方衆が固唾を飲んで見守る
中、軍配が返ると、大神楽が鬼ヶ嶽の
のど輪を許さず得意の左を差してあっ
さりと呼り切った。
「よっしゃ」と歓喜の声を上げる磯
ノ海親方。大相撲を期待したが、意外
にも勝負はあっけなく決まった。
続く九日目の大神楽の相手は横綱若
ノ嶋。両者の対戦は若ノ嶋が劇的な優
勝を飾った第158回以来。

- 全勝 大神楽
- 一敗 西勢ノ里
- 二敗 鬼ヶ嶽、夢ノ花、白閃光

若ノ嶋は八日目に
勝ち越しを賭けた
脇四季嶋との一番に
敗れ、優勝争いから
も脱落した。
進退を賭けた場所
だけに、ここは大神
楽に横綱の実力を見
せつけてひと泡吹か
せたいところ。



注目的一项是先手を
取ったのは若ノ嶋。立
合いから大神楽を押し
込み優勢。大神楽は左
に回りながらこれを何
とか残す。
もう少しで大神楽が
土俵を割るかと思われ
たが、うまく左を差す
とすくうようにして若
ノ嶋を寄り切った。
両者の熱戦に対して「いやあ、大相撲だっ
た！」「いい相撲だった！」との声が上がっ
た。これで大神楽が9戦全勝として、優勝と
横綱昇進に大きく前進した。



四季嶋○(寄り切り)●若ノ嶋

新入幕で幕尻ながら、
6勝1敗と優勝争いに
加わっている西勢ノ里。
八日目は実力者の喜乃
郷との一番だったが、
これを寄り切りに破る
と、九日目は初の三役
挑戦で鬼ヶ嶽との対戦



喜乃郷●(寄り切り)○西勢里



鬼ヶ嶽●(寄り切り)○西勢里
が組まれた。
誰もが鬼ヶ嶽の勝利
を確信していたが、勝
つたのは西勢ノ里。こ
れで8勝1敗として、こ
優勝争いで全勝の大
神楽を追いかける位置
に

横綱千代鈴は七日目
に磯自慢の上手投げに
敗れて2敗。優勝争い
めにはこれ以上負け
れない。ところが八日
目に綱乃花に左を差さ
れて連敗を喫し、優勝
争いから脱落となった。



千代鈴●(寄り切り)○綱乃花